



南クロフネカンパニー代表

中村 文昭

僕ら5人は師匠の田端さんと共同生活しながら、いろんなことを叩き込まれました。

それを「四つのスピリッツ」と呼んでいるんですけど、その一つは、何を頼まれても返事は0.2秒で「はい」と言うことです。

「普通の人間はな、無理なことを言われると、すぐ自分の都合を言い始める。だけど腹の据わっている奴は違つぞ。頭で考える前に『はい、分かりました』と言うんだ。これが0.2秒の返事だ」

「お前らの返事の速さ一つで目の前にいる人間の心をわしづかみにできる。お前らの同級生は返事の前に自分の都合を言う。覚悟の違いや、これは」

「これは自分を捨てる練習や。自分の都合を一回全部捨てろ。何言われても『はい』って返事しろ。その覚悟が0.2秒なんや、こうやって言われたんです。『うわあ〜』と思いませんね。」

でもね、僕らはなかなか0.2秒で「はい」って返事が出来ない

「0.2秒の返事」で僕は人生が変わった

◇10◇

んですよ。つい考えてしま
うんです。

「ただ、人間には『開き
直る才能』があるんです。
追い詰められて、追い詰め
られたとき、分かりました。
やればいいんですよ、や
れば」という瞬間がありま
せんか？ その瞬間、限界
と思っていたその先に自
分の中にあるまだ余力が
残っていたことに気づく
んです。それが自分の知ら
なかつた実力なんです。」



僕たちは師匠と暮らして
いる間は毎日が開き直
りでした。もう何を言われ
ているかはどうでもいい
んです。師匠が何か言った

ら、「はい！」と返事をする。
内容なんてどうでもいい。
それが「海に行つて貝を採
つて来い」と言うんだつた
らバケツ何十杯でも採つ
てきますよ、と。「山に行つ
てたけのこを採つてこい」
と言うんだつたら一日中
掘つて採つてきますよ、と。

この「0.2秒の返事」で
僕は確実に人生が変わり
ました。人との出会いがま
ず変わりました。

「軽トラで八百屋の行商をやつ
ていたときなんか、お客さんか
ら何か頼まれると、何でも『はい！』
『はい！』です。」

「僕はあなたからの頼まれ事
に対して絶対ノーと言いません」
つて言うんです。やれるかやれ
ないかなんてどうでもいいんで
す。『はい』か『イエス』しか言
いませんから」つて言うとお客さ
んが「あんた、何なの一体とか」あ
んたつて子は本当にもう「なん
て言いながら、僕たちはお客さ
ん一人ひとりの心をわしづかみ
にしていました。」

だから「この子だつたらどう
にかしてくるだろう」「この子
だつたら一生懸命やってくれ
だろう」という気持ちになつて
くださるんです。

そうすると「他の誰かじゃダ
メなのよ。中村君、あんたじゃな
きゃ」つて言われるんですよ。
そうやって人からあてにされ
るように、名指しされるよう
になつたのです。

返事の速さは相手の心をパツ
と開かせてしまうんです。そし
て僕はその心に飛び込むんで
すよ。そしたら可愛がられる。

だから0.2秒の返事です。こ
れは子どもでも出来ます。

（高鍋西都法人会が主催した
講演会にて）